

2022年 2月28日発行

今回の紙面から（ページと内容）

会長挨拶	1
第15回国際春季フォーラムのご案内	2
第40回大会のご案内	2
大会優秀発表賞審査結果報告	3
(Student) Workshopの企画募集	3
被災された方の会費免除のお知らせ	3
終身会員の登録申請について	4
理事会より	4
編集委員会より	5
大会運営委員会より	6
広報委員会より	7
学会賞委員会より	7
日本英語学会2021年度収支中間報告書	8
言語系学会連合について	9
人文社会科学系学協会における男女共同	
参画推進連絡会（GEAHSS）について	9
事務局より	9

会長挨拶

会長 金子 義明

新型コロナウイルス感染症が一端は落ち着きを取り戻した状況でしたが、新年を迎えるあたりから新たな変異株による感染者急増により状況が一変しました。再び厳しい状況となりましたが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

2021年度の国際春季フォーラム（SF）と秋の年次大会は、感染状況を踏まえ、全面的にオンライン開催となりました。

昨年5月8日・9日開催の第14回国際春季フォーラムは初のオンライン開催となりました。前田雅子SF14実行委員長をはじめとする大会運営委員の方々、協力校の関西大学の方々、和田尚明前事務局長をはじめとする前事務局メンバーの

方々の多大なるご尽力により、2日間を通じて170名程度の参加者がありました。海外からの参加者も少なくなく、オンライン開催の利点が活かされたフォーラムとなりました。

昨年11月13日・14日に開催された第39回大会も、オンラインで開催されました。第38回大会の経験を踏まえた運営により、研究発表・シンポジウム・特別講演・ワークショップと例年通りのプログラム内容を実現することができました。なお、シンポジウム3件は、第38回大会で延期扱いとなり、1年越しで開催されたものです。漆原朗子大会運営委員長をはじめとする大会運営委員の方々、協力校の山口大学の方々、島越郎事務局長をはじめとする現事務局メンバーの方々のご尽力に感謝申し上げます。2日間にわたる大会を通して600名程度の参加者がありました。参加された方々のアンケート内容は概ね肯定的なものでした。オンライン開催は、感染症流行がもたらしたものではありませんが、今後の大会開催形式の多様化に向けた貴重な経験として活かしていければと思っております。

なお、感染症の先行きが依然として見通せない状況に鑑みて、今年5月14日・15日開催予定の第15回国際春季フォーラムは、ホームページで案内されておりますように、中京大学での現地開催からオンライン開催に変更となりました。さらに、今年11月の第40回大会につきましても、東京外国語大学での現地開催からオンライン開催に変更することが決定されました。これも大会を確実に開催し、研究発表の場を会員の皆様に提供することを最優先とした選択ですので、なにとぞご理解いただきますようお願い申し上げます。第40回大会の開催方式の変更を早めに決定いたしましたのは、開催校の準備態勢に混乱をもたらすことを避けることに加えて、会員の皆様が発表申し込みに向けた準備を進めやすくすることも考慮いたしました。

学会賞関係では、2021年度は残念ながら受賞者がありませんでした。2022年度に向けて、会員の皆様には積極的なご応募をお待ちしております。

廣瀬幸生前会長（現副会長）時代に決定されました学会のペーパーレス化・オンライン化推進の路線を踏襲し、今年度は第15回SFへの発表申し込みにEasyChairを導入しました。また、次の第40回大会への発表申し込みもEasyChairによる申し込みとなります。更に、これもホームページで告知されておりますように、英語学会誌*English Linguistics*は2023年度刊行の第40巻から年1回の刊行になる予定ですが、これに併せて投稿方式のオンライン化が予定されております。

昨今、大学等の研究機関や学術団体において倫理綱領を定める動きがあります。この状況を踏まえて、日本英語学会におきましても、倫理綱領検討ワーキンググループを設置することとなりました。ワーキンググループ代表には小野尚之理事に就任いただきます。

昨年11月開催の第83回理事会におきまして、第11代会長を務められました伊藤たかね先生を学会顧問に推薦申し上げることが決定され、伊藤先生にも顧問就任をご快諾いただきました。4月から顧問にご就任いただきます。

2021年4月から会長を務めて参りましたが、初年度は様々な局面で廣瀬幸生前会長・現副会長にご助力いただきました。廣瀬先生は3月末に副会長を御退任になりますが、会長時代を含めた多大なご尽力に感謝申し上げます。2021年秋には次期会長選挙と理事の改選があり、次期会長には九州大学の西岡宣明先生が選出されました。西岡先生には4月から副会長にご就任いただきます。4月から新たな理事会、西岡新副会長、各委員会、現事務局の体制で学会運営にあたることとなりますが、会員の皆様には引き続きご協力のほど、お願い申し上げます。

第15回国際春季フォーラムのご案内

第15回国際春季フォーラム（SF15）は次の通り開催されます。

日時：2022年5月14日（土）・15日（日）

開催形態：Zoomによるオンライン開催

プログラム詳細については、同封のプログラムをご覧ください。Zoom情報については、後日学会ウェブサイト（<http://elsj.jp/about-the-elsj-spring-forum/>）にアップロードします。

SF15はオンライン開催となるため、受付や参加費の徴収はございません。昨年のSF14同様、原則として、会員のみが参加できるように運営する予定です。具体的には、SF15にオンライン参加するにあたって必要なZoom情報（URL、ID、パスコード）を載せたファイルをパスワードにかけ、開催日1週間前を目途に学会ウェブサイトにアップする予定です。このファイルを開くためのパスワードは、EL 37-2の裏表紙裏に記されているパスワードになります。

なお、最新情報につきましては、随時、学会ウェブサイトにて更新いたしますので、ご注視いただけますようよろしくお願いいたします。

第40回大会のご案内

既に学会ウェブサイトでお伝えしていますが、今秋の第40回大会はZoomによるオンライン開催となります。

日時：2022年11月5日（土）・6日（日）

開催形態：Zoomによるオンライン開催

また、第40回大会よりEasyChair（発表要旨の応募をオンライン上で行うシステム）を導入することになりました。それに伴い、研究発表の応募については、応募者自身がEasyChairに登録する必要があります。詳しい応募方法につきましては、学会HP（http://elsj.jp/sf_top/）をご覧ください。会員の方は奮って研究発表にご応募ください。応募締切は2022年4月1日（金）24時（必着）です。応募の際は、学会ウェブサイト「研究発表応募規定」欄（<http://elsj.jp/meeting-kitei/>）掲載の同規定をご確認ください。また、「大会優秀発表賞」は、2019年度より審査の対象が拡充されましたので、奮ってご応募ください（詳細は、学会ウェブサイトをご覧ください）。なお応募規定

違反の原稿が見受けられますので、規定の内容をよく読み、遵守していただきますようお願いいたします。

大会優秀発表賞審査結果報告

第39回大会の大会優秀発表賞について、審査希望者を対象に査読段階の点数による一次審査と、大会（オンライン開催）当日の発表（Zoomによる発表）に対する二次審査が行われました。審査結果については、12月に開催された大会運営委員会で審議され、齋藤章吾氏（弘前学院大学）「随意的移動と経済性条件」、松田佑治氏（立命館大学）「同等比較構文におけるas節内の形容詞主語の語彙範疇：as happy as happy can beを事例に」の両名に大会優秀発表賞を、Ryosuke Hattori（Kobe Gakuin University）“Acquisition of Degree Abstraction: Seeking Evidence from IPL”、戸鹿野友梨（筑波大学大学院）「接頭辞out-が付加した動詞の新しいタイプについて」の両名に佳作を授与することが決まりました。

齋藤氏の発表は、右方移動への制限を当該移動の随意性と出力に対する経済性条件から導くことを試みた意欲的な研究で、豊富なデータで主張を明確に裏付け、今後の展開も期待できる点、及び、論旨が明快である点が評価されました。一方、提案された分析から生じる文法性と実際の文法性が異なる点や、なぜ、義務的移動は特定の制限に従わないのかという問いに関して何らかの見解を述べる必要がある点が指摘されました。松田氏の発表は、これまであまり研究がなかった現象を取り上げて明確な課題設定を行い、堅実な記述と分析を行っている点や丁寧な分析を提示されている点が高く評価されました。一方、文法的な例と非文法的な例の違いがどこによっているかについて十分な考察がなされていない、「名詞化」分析の詳細や理論的位置付けについて質疑応答で十分に答えることができていなかった、といった問題点も指摘されました。Hattori氏の発表は、幼児を対象とした調査の実施はそれ自体に大きな困難を伴うので、英語を母語とする幼児28

名を対象に新たな実験を実施することで理論的な問いに取り組もうとする姿勢は高く評価され、また、実際の調査の様子動画を取り入れるなど、発表そのものにも工夫が見られると評価されました。一方、実験のデザインや質疑応答に関し、不十分な点があることが指摘されました。戸鹿野氏の発表は、outtechnologyの様な新しい動詞が実はRHRの反例にはならず、outnumberやoutrankから語幹挿入によって派生されると提案し、これまであまり注目されなかったタイプのデータに、新しい分析の可能性を示した点が評価されました。また、分かりやすい発表であり、聴衆からの批判的なコメントに対しても誠実に応答していた点が評価されました。一方で、接頭辞out-が2種類存在することを仮定しているのか、語幹挿入という操作の理論的な位置付けはどのようなか等が詰めきれていない点が指摘されました。

(Student) Workshopの企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ/スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第40回大会では、11月5日(土)の午前9時30分から11時45分までをワークショップ/スチューデント・ワークショップにあてる予定です。企画・運営をご希望の方は、学会ウェブサイト「秋季大会ワークショップ」欄 (<http://elsj.jp/workshop/>) 掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、**2022年4月1日(金) 24時まで**に**必着**にて、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙(Excelファイル)を送信してください。

被災された方の会費免除のお知らせ

昨年発生しました大雨・台風などの自然災害により被害を受けられた皆様、日本英語学会よりお見舞い申し上げます。

学会ウェブサイトでご案内しておりますよう

に、国内で発生した自然災害により被害を受けた会員の方につきましては、その災害が起こった年度、またはその翌年度の会費を免除する制度が適用されます。学会では特に災害は指定せず、会員ご本人の申請によって事務局で会費免除の手続きを行います。

また、会員ご自身の被災だけでなく、会員が生計を支援している方や会員の生計を支援されている方が被災された場合も対象となります。なお、当該年度に入会される方についても、該当される方は会費を免除いたします。

詳細につきましては、学会ウェブサイトの「各種手続き・お問い合わせ」をご覧ください。

免除を希望される方は、上記サイトにあるファイルをダウンロードしてご記入の上、学会事務局までメールに添付してお送りください。(elsj-info@kaitakusha.co.jp)

* 申請は随時受け付けます。

* 申請時においてその年度の会費が納入済みの場合は、次年度の会費に充当させていただきます。

* 既に申請時の年度の会費を納入されていて、特に返金をご希望される場合は、上記のファイルにその旨をご記入ください。

ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会員会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。終身会員に関する規定等については、学会ウェブサイトのトップページにある「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。来年度の登録申し込みは、4月1日から4月25日です。登録期間外のご申請はご遠慮いただけますよう、お願い申し上げます。

理事会より

◇ 会長選挙と理事選挙

昨年10月に会長選挙が行われ、西岡宣明氏（九州大学）が次期会長に選出されました。西岡氏には2022年度に副会長を務めていただいた後、2023年度より2年間会長を務めていただく予定です。金子現会長は2023年度の副会長を務める予定です。

また、会長選挙と併せて、昨年10月に理事選挙も行われました。詳しくは、「役員の変動」欄をご覧ください。

今回の会長選挙と理事選挙は、2023年度に同時に行われる予定です。

◇ 「助成金」の運用

2018年度に創設された2つの助成金である「学生会員発表助成金」と「市河三喜研究助成金」が、2019年度から運用されています。詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 会計

2021年11月1日から11月5日にオンライン（メール会議）で開催された理事会と、同年11月8日から11月10日にオンライン（メール会議）で

開催された評議員会において、日本英語学会2021年度収支中間報告（通常予算用、学生会員発表助成金用、ならびに市川三喜研究助成金用）が承認されました。中間報告書（通常予算用）は本ニューズレターの8ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の異動（含、会長選挙・理事選挙結果報告） 会長選挙結果

2021年度の会長選挙が9月24日告示、10月8日締め切りで実施されました。10月17日に東北大学で選挙管理委員である遊佐典昭評議員と鈴木亨評議員の立ち会いのもと開票が行われました。その結果、西岡宣明氏（九州大学）が次期会長に選出され、理事会で承認されました。任期は2023年4月1日から2025年3月31日までです。また、西岡氏は2022年度と2025年度は副会長を務められます。

なお、現会長の金子義明氏は、2023年4月1日から副会長を務められます。任期は1年間です。

理事選挙結果

2022年3月31日で任期満了となる5名の理事、岡田禎之氏（大阪大学）、金子義明氏（東北大学）、藤田耕司氏（京都大学）、遊佐典昭氏（宮城学院女子大学）、吉村あき子氏（奈良女子大学）が退任されます。そのため、上記の会長選挙と同時に理事選挙も実施され、会長選挙と同様に10月17日に開票が行われました。その結果、下記の5名の新理事が選出され、理事会で承認されました。

家入葉子氏（京都大学）、岩田彩志氏（関西大学）、岸本秀樹氏（神戸大学）、北原久嗣氏（慶應義塾大学）、西岡宣明氏（九州大学）

なお、大室剛志氏（関西外国語大学）、岡崎正男氏（茨城大学）、小野尚之氏（東北大学）、加賀信広氏（筑波大学）、長谷川宏氏（専修大学）、渡辺明氏（東京大学）は、理事2期目となります。

編集委員長（退任）

岡崎正男氏（茨城大学）が2021年11月30日付けで退任されました。2年間、編集委員会の運営にご尽力くださり、誠にありがとうございました。

編集委員長（就任）

岡田禎之氏（大阪大学）が2021年9月1日付けで就任されました。任期は2年間の予定です。

大会運営委員長（退任）

漆原朗子氏（北九州市立大学）が2021年12月14日付けで退任されました。1年間、大会運営委員会の運営にご尽力くださり、誠にありがとうございました。

大会運営委員長（就任）

本間猛氏（東京都立大学）が2021年12月15日付けで就任されました。任期は1年間です。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1190名（2022年1月14日現在）です。内訳は、学生会員43名、通常会員963名、維持会員112名、海外会員6名、終身会員51名（顧問8名を含む）、賛助会員15団体となっております。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第40巻からの年1号化と投稿方法のオンライン化について

ニューズレター75等を通してお知らせしています通り、*EL* 第40巻から年1回の刊行（1号化）となります。この1号化への円滑な移行に向けて、編集委員会内に設けられた作業チームで検討を重ねた結果、投稿締切を年度始、刊行の時期を年度末とする案が岡崎作業チーム長より示され、これを基に最終調整を進めることが第83回の理事会で報告・承認されました。これを受け、現在作業チームでは、投稿締切日と発行月の検討、さらには投稿規定や現行の投稿部門（Article, Brief Article, Notes and Discussion, Review Article, Review）の見直し等を行っているところです。また、同作業チームでは、投稿方法のオンライン化についても引き続き検討が行われています。

1号化とオンライン化については今後具体的な内容が決定し次第、学会HPを通して随時ご案内する予定です。会員の皆様にはご理解とご協力を

お願い申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第38巻1号 (2021年秋号) の刊行について

EL 第38巻1号(秋号)が刊行されました。Article 2編、Brief Article 3編、Notes and Discussion 1編、Review Article 1編、Review 2編が掲載されています。

◇ *English Linguistics* 第38巻2号 (2022年春号) の刊行予定について

EL 第38巻2号(春号)は2022年3月に刊行される予定です。Article 1編、Notes and Discussion 3編、Review 3編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics* 第39巻1号 (2022年秋号) の応募論文について

2021年9月20日締め切りで投稿された一般論文の総数は6編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 1編 (Syntax 1)、Brief Article 3編 (Syntax 1, Semantics/Pragmatics 1, Language Acquisition 1)、Notes and Discussion 2編 (Syntax 1, Semantics 1) でした。また、第38巻2号に投稿されて「4ヶ月書き直し」と判定され、第39巻1号に再投稿された論文の総数は2編で、Article 2編 (Syntax 1, Syntax/Phonology 1) でした。

以下の表は、懲慥によるReview 7編と前号より「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文2編も含めた、第39巻1号の審査状況です(2022年1月8日現在)。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	1	0	0	0	1
BA	3	0	3	0	0
N&D	2	0	1	0	1
Review	7	1	1	1	4
4ヶ月書き直し					
AR	2	2	0	0	0
合計	15	3	5	1	6

◇ *English Linguistics* 第39巻2号 (2023年春号) への投稿について

2023年3月刊行予定の*EL* 第39巻2号の応募締め切りは、2022年4月1日(金) 24時(必着)です。

応募される方は、学会ウェブサイトに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 2021年度*EL* 論文賞について

EL 論文賞について、2021年度は2020年9月20日締め切りの*EL* 第38巻1号(2021年9月刊行済み)で採用となったAR 2編とBA 3編、および2021年4月1日締め切りの*EL* 第38巻2号に投稿され、すでに採用となったAR 1編の計6編について、まず、分野別一次審査を行いました。審査対象となった論文の分野はSyntax 4編、Syntax/ Semantics/Linguistic Typology/ Cognitive Linguistics 1編、Semantics 1編です。一次審査結果を踏まえ、*EL* 論文賞候補論文を1編に絞り込み、現在「最終選考委員会」で、最終選考中です。最終選考で決定された2021年度*EL* 論文賞は、2022年3月中に受賞者にお知らせします。受賞論文の執筆者は、*EL* 投稿時の年齢(あるいは研究歴)に即して、2022年度の日本英語学会賞(論文)と日本英語学会新人賞への応募の有資格者となります。

◇ preprintの公開について

EL への投稿原稿(preprint)を個人のウェブサイト等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ウェブサイトをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ 大会運営委員会の構成

昨年12月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

(委員長) 本間猛氏

(副委員長) 田川拓海氏

(委員) 坂本祐太氏 (国際春季フォーラム実行委員長)、大谷直輝氏 (国際春季フォーラム副実行委員長)、茨木正志郎氏、大関洋平氏、今西祐介氏、白杵岳氏、山村崇斗氏、[以上留任] 小田登志子氏、葛西宏信氏、杉村美奈氏、平沢慎也氏、町田章氏 [以上新任]

◇ 第40回大会シンポジウム企画について

現在準備が進行中です。予定されているシンポジウムは「英語の常識・世界の言語の非常識：英語学の知見が個別言語の研究に与える正の影響と負の影響」及び「Tense: Comparison between Japanese and English」(タイトル等変更の可能性あり)です。詳しい内容は次号のニューズレターでお知らせします。

◇ JELS 39について

JELS 39は電子版のみで作成され、学会ウェブサイトに掲載されます。3月末公開を予定しております。なお、JELS 37より、希望者には、レポートとして、ワークショップとシンポジウムに加え、特別講演も掲載することにしております。ただし、ワークショップやシンポジウムと同様に、「論文」ではなく「報告」としての扱いとなります。JELS 投稿用の原稿サンプル等を改定し、ウェブサイト (<http://elsj.jp/jels/jels-kitei/>) に掲載していますので、ご投稿の際にはご一読ください。

◇ 第39回大会の報告

第39回大会は、2021年11月13日(土)・14日(日)の両日、オンライン上 (Zoom使用) にて開催されました。本大会では、ワークショップ4件、特別講演6件、研究発表19件が行われました。Zoom開催であり一番参加者の多かった時間帯は、1日目は394名、2日目は200名でした。オンライン開催のために書籍展示は叶いませんでしたが、7社に大会期間用URLをご提供いただき、一覧表にしたファイルを学会ウェブサイトにて大会期間中掲載しました。関係各位のご献身ならびに参加された諸氏のご協力により開催できたことに

対して、心より御礼申し上げます。また、今回はGoogle Formにて大会運営に関するご意見を伺いましたが、例年以上に貴重なご意見を多数いただきました。誠にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

◇ 「親と子の部屋」について

第40回大会はオンラインでの開催となるため、「親と子の部屋」を設置しません。

広報委員会より

◇ EL バックナンバーのオープンアクセス化について

広報委員会では、刊行後2年以上経過したELのJ-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム) でのオープンアクセス化に取り組んでいます。2022年1月現在、EL 第34巻2号 (2017) まで公開されております。以下のURLをご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

◇ EL 最新号PDF版の会員向け公開について

2016年2月よりEnglish Linguistics Onlineの名称で学会ウェブサイトの以下のURLにてEL 最新刊のPDF版論文を公開しています。2022年1月現在、EL 第37巻1号・2号の掲載論文がアップロードされています。なお、English Linguistics OnlineのPDFへのアクセスには、印刷版ELの毎巻2号の裏表紙内側に印刷されているIDとパスワードが必要となります。

http://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

学会賞委員会より

◇ 2021年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞では、学会賞 (著書)、学会賞 (論文)、新人賞の3部門で応募を受け、審査を行っています。今年度の選考は、2021年度学会賞委員会 (山口治彦委員長、遠藤喜雄副委員長、岡

崎正男編集委員会委員長、岡田禎之編集委員会副委員長、島越郎事務局長)のもとに実施されました。2021年4月1日から4月15日の応募期間内に、学会賞(著書)に著書2編の応募がありました。学会賞(論文)と新人賞への応募はありませんでした。

学会賞(著書)の一連の審査は5月下旬から10月中旬にかけて行われました。1次審査、最終審査、ならびに2021年10月17日(日)に開催した最終選考委員会において慎重に審議を行いました。その後、学会賞委員会の審議を経て、2021年度日本英語学会賞(著書)の授与を見送ることになりました。選考結果は2021年11月13日(土)に開催された日本英語学会第39回大会の総会において報告されました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名はEL 第39巻1号に掲載される学会賞委員会報告に記載されます。

言語系学会連合について

日本英語学会は、本年度（2021年度）は運営委員学会として活動しました。来年度（2022年度）は監査委員学会として活動することになります。

本年度もコロナ禍のため、運営委員会は遠隔会議となりました。

2021年7月30日の運営委員会（Zoomによるオンラインミーティング）では、本年度の学会連合役員と運営体制が確認され、2021年度の活動と決算の報告に続いて、本年度の活動と予算の中間報告がありました。

言語系学会連合のウェブサイト（WS）が本年度更新されました。この機会に会員の皆様も閲覧ください（<https://uals.net>）。2020年に「WS更新プロジェクト」を立ち上げ、幹事学会から選出されたワーキンググループ（WG）5名（本学会からは金谷優氏（筑波大学））が中心となってこの更新を成功させました。

2021年11月21日に言語系学会連合公開シンポジウム「データベースをつくる・つかう：課題と展望」がオンラインで開催されました（<http://uals.net>参照）。

2021年1月23日の加盟学会による意見交換会（Zoomによるオンラインミーティング）では、主に (i) コロナ禍での学会運営、大会運営、(ii) 継続的な学会の運営（法人化プロセス）、(iii) 海外の基調講演者への謝礼における源泉徴収等の対応、(iv) J-Stageのプレプリントサーバーの運用開始に伴う対応、(v) 研究倫理のガイドライン（具体的には、二重投稿の防止対策）について、意見交換を行いました。

人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）について

2021年9月18日（土）開催のギース4期運営委員会第2回（通算第8回）において、ギース第5期（2021年10月1日～2022年9月30日）の委員長に吉原雅子氏（日本哲学会）、副委員長に伊藤公雄氏（日本社会学会）が選出されました。委員長

が所属する日本哲学会を幹事学協会とし、副委員長が所属する日本社会学会が副幹事学協会となることが承認されました。

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2022年1月14日現在の会員総数は1190名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入していただきますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

2022年度に学生会員として登録（2021年度からの継続）を希望される方は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了後に2022年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。特に年度末の2月、3月に学生会員として新入会された場合も、新年度には改めて申告をしていただくようお願いいたします。

・申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員

①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。

②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生。

・申告期間：2022年4月1日～4月25日（必着）

・申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の(1)から(4)のいずれかの書類を添付し、事務局宛（宛先は奥付参照）に「学生会員登録希望」と必ず朱書きのうえ、郵送してください。

(1) 在学する学校の発行する在学証明書

- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知書のコピー
- (4) (元) 指導教員(所属明記)の署名(捺印)と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、(4)の方法により書類を提出してください。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局宛(elsj-info@kaitakusha.co.jp)にご連絡ください。

なお、コロナ禍の影響で申請期間内に学生会員を証明する書類を送付できない場合は、あらかじめ事務局宛(elsj-info@kaitakusha.co.jp)にご相談ください。

◇ 学生会員登録(新規入会)について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、上記の学生会員登録と同じ要領で申し込むことにより、申告期間にかかわらず、いつでも初年度から学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものでご注意ください。詳しくは、学会ウェブサイトをご確認ください。

◇ *EL*、*JELS* への論文投稿に関するお願い

EL、*JELS* に論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「*JELS* 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信してください。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

EL に関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文の*EL* 掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記してください。

JELS や所属機関のworking papers等に掲載された研究(の一部)を発展させて*EL* に投稿する

場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、三人称表現をご使用ください。

◇ *EL* 掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

EL に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL* に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛(elsj-info@kaitakusha.co.jp)にお知らせください。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」に*EL* に掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせください。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意願います。

◇ *JELS* 掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS 掲載論文についても、再録および学術情報レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、*EL* 掲載論文の場合と同様に、事務局(elsj-info@kaitakusha.co.jp)までお申し出ください。

JELS 掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術情報レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

なお、*JELS* 37からは電子化に移行しましたので、それ以降の掲載論文はオープンアクセスとします。したがって、*JELS* 37以降の*JELS* 掲載論文は再録及び学術情報レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合に、随時事務局にお申し出いただく必要はありません。

◇ **EL 公費購入のお願い**

ご所属の大学図書館や研究室でEL を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。EL がより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしく願いいたします。

術科学大学) が2021年9月30日付けで退任されました。学会のためにご尽力いただいたことに感謝いたします。

◇ **電子版投稿・審査体制に関連するお願い**

研究発表応募、EL への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力ください。

◇ **連絡先等変更のご連絡のお願い**

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡ください。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ **終身会員の大会参加にあたってのお願い**

終身会員におかれましては、大会ご参加時の受付にて、終身会員カードをご提示いただき、自ら終身会員である旨お申し出いただけますよう、お願いいたします。受付にはアルバイトの学生が多く協力してくれていますが、終身会員のお名前を存じ上げない場合が多く、特に混雑時にはなかなか配慮が行き届きません。(顧問を除く) 終身会員におかれましては大会参加費はお支払いいただけますよう、お願い申し上げます。

◇ **退任**

昨年4月の新事務局発足後も引き続き、編集委員会書記としての役割を果たしてくださった今野弘章氏(奈良女子大学)と五十嵐啓太氏(長岡技

編集後記

昨年11月には第39回大会をオンラインで開催し、多くの会員の皆さんに参加していただきました。特に、公開特別シンポジウム「今、英語教育を考える－英語にかかわる研究の視点から－」には会員以外の参加者も含めると300人ほどの方が参加され、日本英語学会に期待されている社会的役割の大きさを改めて感じました。現在、第40回大会に向けて公開特別シンポジウム、一般シンポジウム、特別講演等の企画を大会運営委員の先生方と共に企画中ですが、多くの方に参加していただけるような大会にできればと考えております。

また、第39回大会に関するアンケートには、「コロナ禍によりオンライン開催となりましたが、参加のしやすさなど、オンライン開催にも優れている部分がありますので、平常に戻りましても、一部にオンライン開催も取り入れていただけるとよいのではないかと思います。」、「オンライン開催していただき家事育児との両立が図れましたので、大変助かりました。コロナが終息してもオンライン開催をお続けくださることを切に願います。」、「今後は、感染症の有無に関係なく、会場＋オンラインの大会を希望します。」といったオンライン開催を今後も継続して欲しいという多くのご意見をいただきました。コロナ禍の状況が続く中、先行きが不透明のため、来年度の第15回国際春季フォーラムと第40回大会もオンライン開催となりますが、ウィズ・コロナにおける大会開催のあり方を会員の皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。(E.S.)

2022年2月28日発行

編集・発行 日本英語学会
代表者 金子 義明
発行所 日本英語学会
<http://elsj.jp/>

〒113-0013

東京都文京区音羽1-22-16

開拓社内

電話 (03) 5395-7101
